

2017年10月26日

経済レポート

関西のインバウンド消費(2017年7-9月期)

～前年比2桁増と好調が続くも、伸び率は全国を下回る～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

2017年7-9月期に関西を訪問した外国人数は前年比+13.9%の324万人、関西での消費額(インバウンド消費額)は同+11.9%の3,024億円、訪日外国人一人あたり消費額(消費単価)は同-1.8%の9.3万円となったと見込まれる(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(MURC)推計)。

日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」によると、同時期の日本全国の訪日外国人数は同+18.8%の744万人、インバウンド消費額は同+26.7%の1兆2,305億円、一人あたり消費額は同+6.6%の16.5万円であった。

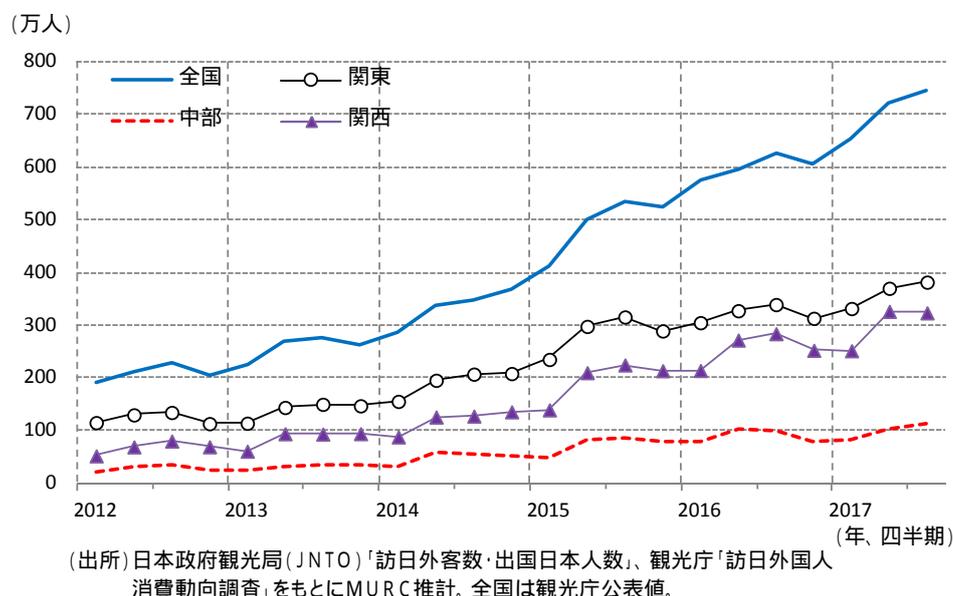
関西では、訪日外国人数の伸びに比べて消費額の伸びが鈍化しているが、これは消費単価の低下が影響している。消費単価が低下している要因としては、訪問客の平均宿泊数が前年同期に比べ減少していることや、訪問客の属性が多様化し消費単価の低い層が増加したことが考えられる。

1. 訪日外国人数の動向

関西を訪れる外国人の数は、増加基調で推移している。2017年7-9月期の前年比伸び率は+13.9%とかつてに比べると伸び率が縮小しているものの、依然2桁増を続けている。伸び率は2四半期連続で全国を下回ったが、関東、中部よりも高い伸びとなっている。リピーターの増加とともに訪日外国人数が増加する中で、主要な訪問地域である大都市圏の伸び率が相対的に鈍化している。

2017年7-9月期に関西を訪問した外国人数を府県別に見ると、滋賀県が前年比-28.5%の2.7万人、京都府が同+4.9%の195.2万人、大阪府が同+15.2%の300.7万人、兵庫県が同-3.0%の39.6万人、奈良県が同+22.3%の61.3万人、和歌山県が同+12.6%の9.5万人と推計される。大阪、奈良が高い伸びを続けている。

図表1. 訪日外国人数の動向



図表2. 訪日外国人数の動向(府県別)

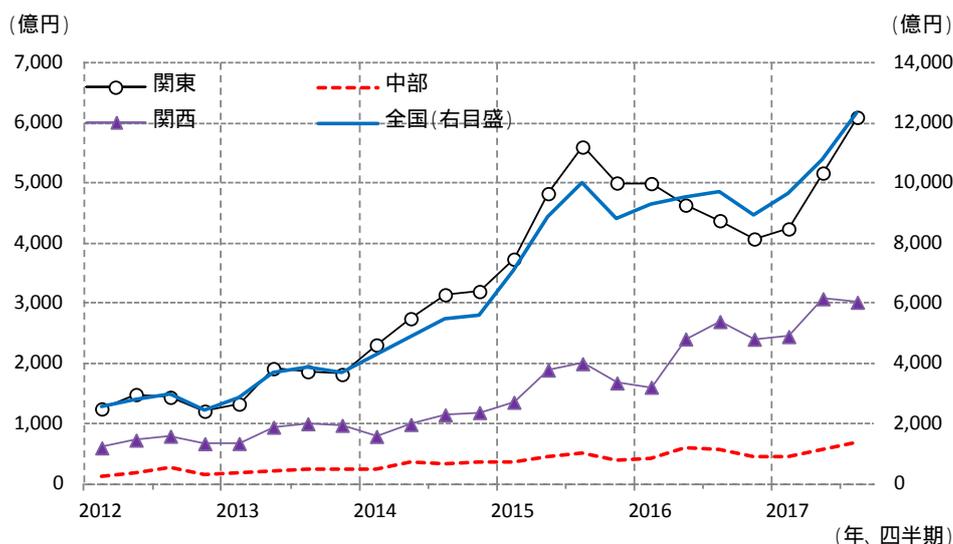
| (単位) | 2016年 | | | | 2017年 | | | | | |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 7-9月期 | | 10-12月期 | | 1-3月期 | | 4-6月期 | | 7-9月期 | |
| | 実数 (万人) | 前年比 (%) |
| 滋賀県 | 3.8 | 18.9 | 3.9 | -8.3 | 3.4 | 10.9 | 8.2 | 99.4 | 2.7 | -28.5 |
| 京都府 | 186.2 | 32.6 | 164.4 | 21.9 | 159.9 | 20.3 | 202.7 | 14.5 | 195.2 | 4.9 |
| 大阪府 | 260.9 | 27.0 | 229.5 | 20.1 | 236.2 | 16.3 | 295.0 | 19.4 | 300.7 | 15.2 |
| 兵庫県 | 40.9 | 20.4 | 36.0 | 3.2 | 38.3 | 7.3 | 44.1 | 20.4 | 39.6 | -3.0 |
| 奈良県 | 50.1 | 57.1 | 40.7 | 30.3 | 43.6 | 39.5 | 55.7 | 28.6 | 61.3 | 22.3 |
| 和歌山県 | 8.4 | 60.0 | 5.9 | -31.4 | 5.5 | 5.7 | 9.9 | 9.1 | 9.5 | 12.6 |
| 近畿地区 | 284 | 26.3 | 253 | 18.0 | 252 | 17.4 | 327 | 20.0 | 324 | 13.9 |
| 関東地区 | 340 | 7.4 | 314 | 8.3 | 332 | 8.8 | 371 | 13.0 | 382 | 12.5 |
| 中部地区 | 100 | 18.7 | 81 | 3.0 | 82 | 4.4 | 104 | 0.4 | 112 | 11.3 |
| 全国 | 626 | 17.1 | 606 | 15.5 | 654 | 13.6 | 722 | 21.1 | 744 | 18.8 |

2. インバウンド消費額の動向

2017年7-9月期の全国のインバウンド消費額の伸び率は前年比で+26.7%と高い伸びとなった。関西のインバウンド消費額は同+11.9%と全国の伸びを6四半期ぶりに下回ったものの、高い伸びを維持している。関西では、訪日外国人数の伸びに比べて消費額の伸びが鈍化しているが、これは次節で見るとおり一人当たり消費額の低下が影響している。日銀大阪支店が公表している「百貨店免税売上(関西地域)」によると、7-9月期の売上げは前年比+107.2%とほぼ倍増しており、モノの消費は足下大きく伸びている面もある。そのような中で一人あたり消費額が低下している要因としては、訪問客の平均宿泊数が前年同期に比べ減少していることや、訪問客の属性が多様化し消費単価の低い層が増加したことなどが考えられる。

2017年7-9月期のインバウンド消費額を府県別に見ると、滋賀県が前年比+93.1%の12.0億円、京都府が同+11.5%の588.0億円、大阪府が同+13.2%の2,274.3億円、兵庫県が同-5.2%の84.7億円、奈良県が同-7.3%の48.7億円、和歌山県が同-15.3%の16.6億円と推計される。

図表3. インバウンド消費額の動向



(出所)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表4. インバウンド消費額の動向(府県別)

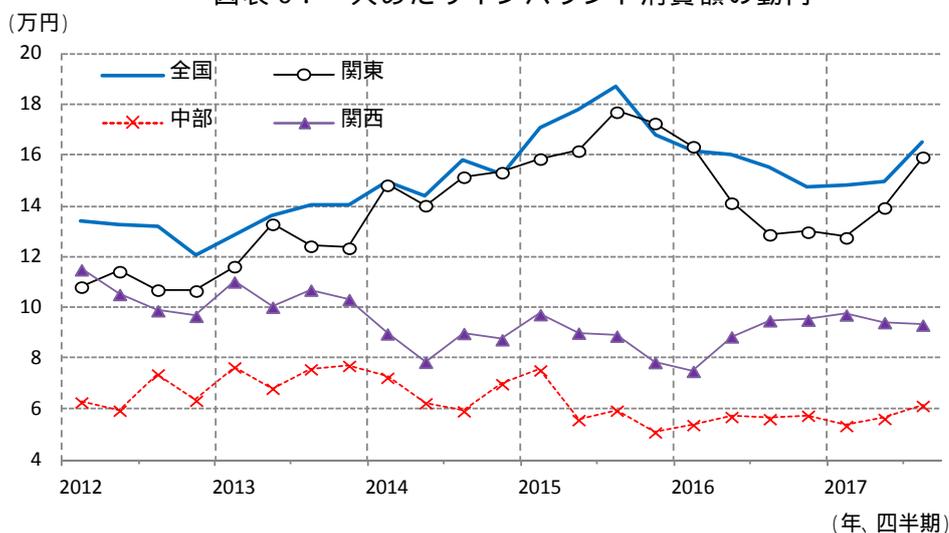
| (単位) | 2016年 | | | | 2017年 | | | | | |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 7-9月期 | | 10-12月期 | | 1-3月期 | | 4-6月期 | | 7-9月期 | |
| | 実数 (億円) | 前年比 (%) |
| 滋賀県 | 6.2 | -24.0 | 14.1 | 54.2 | 4.2 | -55.0 | 14.3 | 57.1 | 12.0 | 93.1 |
| 京都府 | 527.3 | -7.4 | 560.0 | 30.4 | 416.6 | 23.6 | 688.6 | 11.9 | 588.0 | 11.5 |
| 大阪府 | 2008.6 | 57.1 | 1704.6 | 52.3 | 1930.3 | 64.9 | 2252.4 | 36.0 | 2274.3 | 13.2 |
| 兵庫県 | 89.3 | -23.0 | 96.8 | 7.0 | 67.7 | 8.1 | 76.1 | 9.8 | 84.7 | -5.2 |
| 奈良県 | 52.5 | 117.7 | 24.4 | -1.5 | 28.1 | 26.7 | 34.1 | -22.8 | 48.7 | -7.3 |
| 和歌山県 | 19.6 | 148.0 | 10.7 | -5.8 | 7.1 | -38.5 | 16.7 | -21.2 | 16.6 | -15.3 |
| 近畿地区 | 2,704 | 34.9 | 2,410 | 43.1 | 2,454 | 52.1 | 3,082 | 27.6 | 3,024 | 11.9 |
| 関東地区 | 4,379 | -21.8 | 4,075 | -18.6 | 4,242 | -15.1 | 5,169 | 11.5 | 6,095 | 39.2 |
| 中部地区 | 564 | 12.1 | 465 | 16.3 | 442 | 3.7 | 584 | -1.0 | 686 | 21.6 |
| 全国 | 9,716 | -2.9 | 8,922 | 1.3 | 9,679 | 4.0 | 10,776 | 13.0 | 12,305 | 26.7 |

3. 一人あたりインバウンド消費額の動向

インバウンド消費額を訪日外国人数で割った一人あたりインバウンド消費額（消費単価）¹は、全国、関東では2016年に低下した後再び増加してきているが、関西は概ね横ばい圏で推移している。

2017年7-9月期の関西での消費単価は、前年比 - 1.8%の9.3万円と5カ月ぶりに減少したと推計される。府県別では、滋賀県が前年比 + 170%の4.4万円、京都府が同 + 6.3%の3.0万円、大阪府が同 - 1.7%の7.6万円、兵庫県が同 - 2.2%の2.1万円、奈良県が同 - 24.2%の0.8万円、和歌山県が同 - 24.8%の1.8万円となった。県別の消費単価はサンプル要因によって大きくぶれる可能性があり、特に滋賀県、和歌山県などサンプル数が少ない県の数字を見る際には幅をもって見る必要がある。今回、滋賀県が前年比で大幅増となったが、サンプル要因による変動の可能性はある。

図表5. 一人あたりインバウンド消費額の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。

図表6. 一人あたりインバウンド消費額の動向（府県別）

| (単位) | 2016年 | | | | 2017年 | | | | | |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 7-9月期 | | 10-12月期 | | 1-3月期 | | 4-6月期 | | 7-9月期 | |
| | 実数 (万円) | 前年比 (%) |
| 滋賀県 | 1.6 | -36.0 | 3.7 | 68.2 | 1.2 | -59.4 | 1.7 | -21.2 | 4.4 | 170.0 |
| 京都府 | 2.8 | -30.1 | 3.4 | 7.0 | 2.6 | 2.7 | 3.4 | -2.3 | 3.0 | 6.3 |
| 大阪府 | 7.7 | 23.7 | 7.4 | 26.8 | 8.2 | 41.7 | 7.6 | 13.9 | 7.6 | -1.7 |
| 兵庫県 | 2.2 | -36.0 | 2.7 | 3.6 | 1.8 | 0.8 | 1.7 | -8.8 | 2.1 | -2.2 |
| 奈良県 | 1.0 | 38.5 | 0.6 | -24.4 | 0.6 | -9.1 | 0.6 | -39.9 | 0.8 | -24.2 |
| 和歌山県 | 2.3 | 55.0 | 1.8 | 37.4 | 1.3 | -41.8 | 1.7 | -27.7 | 1.8 | -24.8 |
| 近畿地区 | 9.5 | 6.8 | 9.5 | 21.2 | 9.7 | 29.5 | 9.4 | 6.3 | 9.3 | -1.8 |
| 関東地区 | 12.9 | -27.2 | 13.0 | -24.8 | 12.8 | -21.9 | 13.9 | -1.3 | 15.9 | 23.7 |
| 中部地区 | 5.6 | -5.6 | 5.8 | 12.9 | 5.4 | -0.7 | 5.6 | -1.3 | 6.2 | 9.2 |
| 全国 | 15.5 | -17.1 | 14.7 | -12.2 | 14.8 | -8.5 | 14.9 | -6.7 | 16.5 | 6.6 |

¹ 地域別消費単価はパッケージツアーに含まれる国内収入分を加味したMURCの推計値であり、観光庁「外国人消費動向調査」の消費単価とは異なる。

(参考文献)

- ・藤田隼平 塚田裕昭 (2015)「近畿地域におけるインバウンド消費の現状と見通し」三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査レポート

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。